

きんもくせい

編集目標 人間尊重の教育を求めて

平成27年 学校教育だより

March **3** 第324号

(年4回発行)

編集・きんもくせい編集委員会
発行・埼玉県富士見市教育委員会
電話・049-251-2711 (内線622)



「縄ない」3年体験学習～難波田城公園にて～

写真提供／つるせ台小学校

「はじまり」

南畑小学校六年

細川 暖香

待っている

私は春を待っている

入学式では胸が高まり

桜がきれいにさくだろう

みんなの笑顔もさくだろう

初めの一步が未来につながる

勇気を出して飛び立とう

春は全ての始まりだ

多くの人の期待を胸に

新たな一步をふみ出したい

図画工作科で育む力

図画工作科には「造形遊び」という活動があります。材料と進んで関わり、試行錯誤しながら表現を楽しみ、色や形のよさといった材料の特性や可能性を見出していく活動です。活動の中で派生する友だちとの関わりの中で、自分の考えや思いを相手に伝えたり、相手の意見に耳を傾けて聞いたりといった言語活動を通して、社会性や協調性も育まれることも期待できます。子どもたちを取巻く現代社会は、常に新しい知識・情報・技術が、社会のあらゆる活動の基盤として重要性を増しています。このような現代社会において、自分を表現したり、様々な人の表現を見取ったりする高度なコミュニケーション能力は欠くことができません。他と関わり、感性を働かせながら自分なりの判断をすることは、そのまま「確かな学力」を構成する「思考力・判断力・表現力」の育成につながります。そういう意味で、図画工作科は、子どもたち一人一人の人間形成に重要な働きをしていると考えることができます。

はじめに

「造形遊び」は、思いのままに試みる自由さなどの遊びの特性を活かしたもので、始めから作品をつくることを目的とはしていません。カタチとして残らない活動も多く、ご家庭には伝わりにくい場合もあります。しかし、既成のおもちゃや決められたルールの中で遊ぶことの多い子どもたちにとって、「造形遊び」は、とても意義深いものであると考えます。子どもたちは、材料に進んで関わり、並べたり、つない

針ヶ谷小学校 教諭 保坂 裕美

わかる授業 = 図画工作 =

“造形的な遊びで、つくりだす喜びを” ~ 図画工作科を「気づき、考え、行動する力」 ~

遊びをする中で

一人あたり四〇〇個、一万を超える紙コップを前に歓声が上がります。「どんなことができるかな。」教師の問いかけに、子どもたちは「積み」「並べる」…いろいろなことができそうだと考えます。数個で試してみると、どうも積み方も並べ方もいろいろあるようだと思付きました。さあ、ここからダイナミックな活動です。大量の紙コップを積み、並べ広げ子どもたちは体全体を使い材料に関



題材と場の工夫

低学年では、粘土や砂、木の葉といった自然物や、新聞紙や段ボールなどの人工物を材料として扱います。「紙コップ」を材料とした造形遊びを紹介します。子どもたちにとって、紙コップは、

水谷中学校 二年 河村 祥栄

水谷中学校では、いじめがなくなり、誰もがすがすがしい気持ちで学校生活を送るために「おはよう運動プロジェクト」を実施しています。主な活動は、握手をするあいさつ運動と紙に嬉しかったことを書き、掲示板に貼る Thank you キャンペーンです。握手をするあいさつ

おはよう運動プロジェクト実施中!!!

運動は、握手をしてあいさつすることで色々な人とつながることができます。Thank you キャンペーンは紙が葉の形になっていて木に葉をつけていくようになっています。水谷中からいじめがなくなり誰もがすがすがしい気持ちで生活できるように今後も最善を尽くしていこうと思っています。



終わりに

館の線を使ったら面白かった。活動の中からの気づきを皆で共有しました。 「図工の作品の中では、何でもできる。何にでもなれる。」子どもたちは、意欲的に学習に取り組みます。 これからも、子どもたちの笑顔あふれる授業づくりを目指し、題材の研究をしていきたいと思えます。

指導・講評 針ヶ谷小学校校長 佐藤公誠

「造形遊び」は思い付くままに試みる自由さなどの遊びの特性を生かした活動です。「絵や立体、工作に表す」活動にはテーマや目的、用途や機能などに沿って自分の表現を追求していく性質があります。

「造形遊び」と「絵や立体、工作」は、二つの側面から子どもたちの発想や構想の能力、創造的な技能などを育てていくこととなります。 このことを認識し、小学校の全学年で充実した「造形遊び」を展開してほしい。

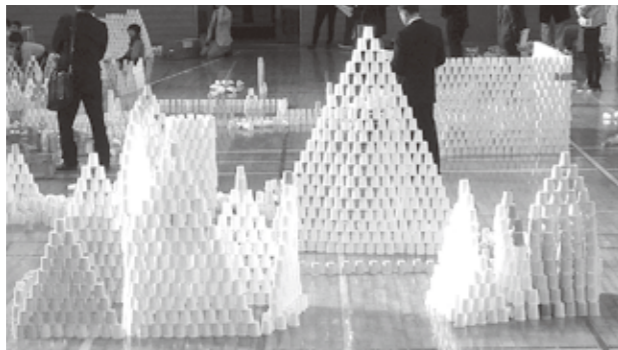
特別支援教育

「地域に根差した富士見特別支援学校」

富士見特別支援学校 教諭 壺井 健治

まず、富士見特別支援学校の存在自体が県においても全国的に見ても非常に稀有な存在であることを述べたいと思います。県立ではない市町村立の特別支援学校は、富士見市を除いてはさいたま市と川越市にしかありません。富士見市の規模からして運営はかなり厳しいと思われます。しかし今、地域に根差した特別支援教育が強く求められてい

教育の機会均等を目指し、あらゆる人が教育を受ける権利を保障されるために制定されました。ただ、その時にも取り残された子どもたちがいました。それは、日々吸引・経管栄養等の医療を必要としている子供たちです。そのため学校でも必要な医療的ケアを受けられ学習できる環境を本校は整えてきました。 義務制の時代から創立していた歴史ある富士見特別支援学校も今年で開校四十周年を迎えます。これからも地域に根差した特別支援学校としてあり続ける意義を感じます。



ージした遊びを加えました。最後に振り返りとして、気付いたことを発表します。ま

未知なる力

富士見台中学校 保護者 萩原 洋

娘が小学校三年の時に少林寺拳法を始めました。私も昔習っていた事もあり、師匠の強い薦めで復帰しました。若い頃から自分の子供と一緒にの事をやる事が夢でした。その理由は単純に楽しいと思っただけです。さて、この現実は想像とは遥かに違い、コミュニケーションがあり、娘の気持ちが良い理解でき、とても楽しいのです。

その頃、少年部の指導も始めましたが、娘を含め、子供達から「未知なる力」を感じ始めました。指導をするのに子供達だけ励ましても説得力が感じられなかったのか、自分自身も努力する様になりました。お陰様で、同じ大会に出場し親子共々、優勝した経験があります。娘や子供達を励まし、勇気や希望を与えていたつもりでしたが、皆から同じものを返してもらっていた事に気が付きました。それが「未知なる力」だったのですね。



子供を育てているはずが、親もそれに合わせて成長して

お礼、謝る、というような基本的な事は、親が自然とやり、良い見本になると良いのではないのでしょうか。子どもは無意識に親のマネをするのが多いので、子どもが人の悪口や言い訳ばかりするのは、自分達がしているからではないのでしょうか。親の影響が大きいので、親ができない事を子どもにさせるのは、無理があるはずで

子育ては大変です。でも、一人で悩まず、また、「親が子どもにいい見本を見せてる。」などと考えすぎると親にとつては結構実践が難しい



と思います。親も未熟な人間であるので、「子育て」を自育のいい機会と考えれば、子育てに対する心の姿勢も変わるのではないのでしょうか。幸せのために…。



「全力で…」

勝瀬中学校

勝瀬中学校三年生の面接練習で、「中学校で思い出に残っていることは？」と聞くと、全員の生徒が「体育祭、合唱発表会」と答えます。どこ

の学校でも実施されている行事ですが、勝瀬中の生徒が行事にかける思いには、とても重い意志が込められています。体育祭での仲間に対する応援。開会から閉会まで途切れることはありません。誰一人

着席しません。共に全力を出し切る仲間のために、声枯れるまで全力で応援します。合唱発表会では、仲間との絆を確かめるように、全力で唱えます。心の響きを高め、今ある自分の限界を超えるように、うにように全力で唱います。そして勝瀬中を思う人たちは全力で涙を流します。生徒も、教職員も、保護者も…。

共に感動を心から感じながら、



その喜びを素直に全力で表現します。「ともに学び、心が響き合う学校」これが、勝瀬中の目指す学校です。

「歌声響く」



ふじみ野小学校

本校では、学校経営方針の「児童のよさや可能性を高める教育を推進する」の具現化を図るため、歌声リーダーを組織しています。歌声リーダーは、児童が普段学びえない音楽性を身に付けることで自分に自信を持たせ、歌うことへの喜びや楽しさを味わわせるために四年生以上の有志で結成されたものです。校内の活動としては、学校全体の児童の歌声がレベルア

ップできるような手本を目指し、「今月の歌」を中心に様々な楽曲に取り組んでいます。また、家庭の協力を得て、「勝瀬DE緑日」「ふじみ野文化祭」等の地域行事にも出演しました。本年度、技能や表現力の向上を目指し、NHK全国学校音楽コンクールに参加し、「銀賞」をいただくことができました。今後も気持ちを一つに、見て・聴いて・感じたものを表現しようとする



児童の姿を尊重し、可能性を高めることができるよう指導して参りたいと思います。

子育ては自育

勝瀬小学校 保護者 清水 美絵

私は、現在二児の母です。毎日楽しく過ごしております。そんな私が、子育てについて考えてみたいと思います。

新聞やネットで「子育てに悩んで…」という記事をよく拝見します。子育てに苦労している人や、悩んでいる人も多いと思います。国民生活に関する世論調査によると、子育てが「楽しいと感じる事の方が多い」という人が42.9%、「楽しいと感じる事と辛いと感じる事が同じ位」という人

が38%、「辛いと感じる事の方が多い」という人が6.5%だそうです。子育てには辛い事もありますが、それ以上に幸せな事も多いはずで

子育てで大切なのは、自分の子どもの魅力に気付ける事ではないでしょうか。魅力に気付けば自分の喜びになり、子どもをさらに好きになり、子育ての力にもなります。次に、自分を育て、親が良

教育課題特集

はぐくむ 生きる力を

～学校・家庭・地域から～

ドッジボールチーム

イコール関沢 監督 中庭 秀夫

ドッジボールと言えば、校庭での遊びを連想されると思いますが、競技スポーツとしての公式ドッジボールやそれとは違います。小学三年生から六年生の男女混合十二名がチームとして対戦します。ボールを投げて捕るだけでなく、フォーメーションによる守備や内外野のコンビネーションによる攻撃など、高度な戦術が必要なアグレッシブなスポーツです。チーム全員で相手のアタックをキャッチした時の子供達の真剣な笑顔、歓喜の声は応援する保護者達をも熱狂させます。そこには、プレイヤーひとりひとりが得点1を背負うことで個人の重さを感じながらも、チーム一丸となつて戦う姿があります。日々の練習を重ねていく中で自分たちはチームにとって、なくてはならない存在だと知り、責任感が生まれてきます。そんな子どもたちひとりひとりを見てみると、花のつぼみが開く様に輝く時があります。その瞬間に出会えることが、私の得られる驚きであり喜び

なのです。中学生になると親から少しづつ離れていってしまいます。小学生のうち親と一緒に熱く泣いたり、笑ったり、時には反省したり。仲間同士、コミュニケーションを深め、絆を強くしていくことで人間としての強い土台を築くことが出来るのです。子供達がドッジボールに真剣に向き合い全力でやり切ったことで得られる自信。これを持って、これからの人生に力強く向かって行くことができます。その環境をチームに携わるすべての人でつくり上げています。





関
沢
小

関小に「神奈川フィル」がやってきた!

文化庁の文化芸術による子供育成事業で、神奈川フィルハーモニー管弦楽団75名が来校しました。子供達が作ったオリジナル曲を歌ったり、共に演奏したりもしました。オーケストラバージョンの校歌に一同感動でした。



針
ヶ
谷
小

「針小郷土かるた大会」～伝統の熱き戦い～

「㊦ょうわ59年 元気に誕生 針ヶ谷小」と、最初の札が読まれ、針小郷土かるた大会が始まります。シーンと静まり返る体育館に、「バシッ!」とかるたを取る音が響き渡ります。



勝
瀬
小

朝遊びで体力アップ!

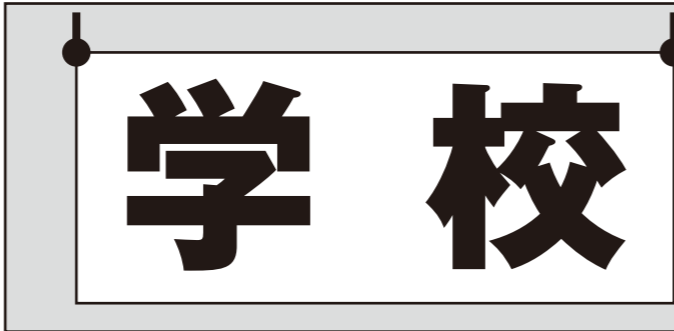
高学年の児童を中心とした「遊びサポーター」と大学生中心の「遊びボランティア」の活躍によって、朝の外遊びの時間が充実し、進んで外遊びをする児童が育っています。



西
中

目指せ! スキー・スノーボー名人!

1年生が1月にスキー・スノーボード体験学習に行きました。白銀の世界で悪戦苦闘の末、多くの生徒の技術が上達し、「楽しかった!」の声が沢山聞こえる体験となりました。



諏
訪
小

群読集会～みんなで声をそろえよう～

国語研究の一環で、群読の練習に取り組み、2学年ずつ発表し合っています。リズムよく、抑揚をつけた楽しい群読が諏訪小中に響き渡っています。



東
中

避難訓練 (地震体験車による体験活動)

3学期の避難訓練では、地震体験車に乗り、実際にこれまで体感したことのない激しい強度の揺れに恐怖と地震の脅威を身を持って感じました。改めて、心構えと身構えの両輪が「命の防護服」であることを学びました。



勝
瀬
中

「あいりちゃん募金」で復興支援

生徒会本部が中心となり、東日本大震災で被災したあいりちゃんの絵本を製作するための募金活動を行いました。全校生徒から多くの募金が集まりました。

子ども達がたくさん思い出を抱え、そして、ひと回り大きく成長して、教室を飛び立っていく季節になりました。
学校TODAYで紹介できたのは、ほんの一部の取組ですが、各校が創意工夫をして、多様な体験活動に取り組んできました。その中でも地域や保護者の方、外部指導者の方の協力を得て行った取組は、より充実したものになりました。きちんと挨拶をすること、お願いをすること、自分の考えを伝えること、そんなことを緊張しながらする姿に成長を感じます。
これからも、保護者の皆さんや地域の方にはお世話になります。学校と手を携えて、温かなご支援をよろしくお願いします。



み
ず
ほ
台
小

ドキドキ・ワクワクなかよしまつり

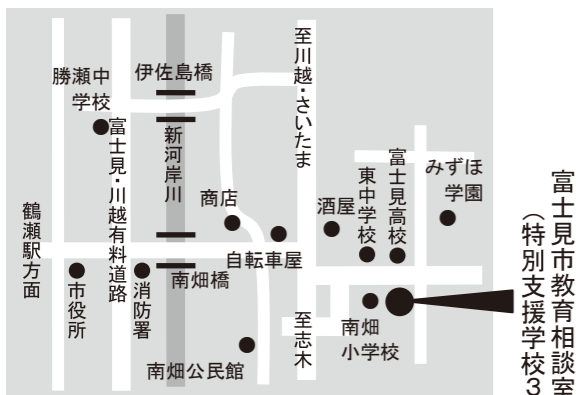
毎年1月に行われるなかよしまつり。2年生が、1年生と幼稚園児を招いて遊びのお店を開きます。今年も、優しさと笑顔の溢れる楽しい会となりました。2年生は、色々と企画する力が身に付いてきました。



水
谷
東
小

東っ子ドッジボール大会

本校では、投力向上に向けて、業前・業間に全校児童でドッジボール大会を行いました。寒い日でも休み時間にドッジボールをする児童が増えました。他学年と試合をすることで異学年同士がふれ合う場ともなりました。



II 市教育相談室よりII
『教育相談Q&A』
Q 小1男児ですが、読んだり書いたりすることが他のお友だちよりも大変そうです。最近では、宿題を隠そうとします。インターネットで調べたところ、LD(学習障がい)ではないかと心配になりました。
A お問い合わせありがとうございます。ご質問の中にありましたLD(学習障がい)とは、聞く、話す、読む、書く、計算する、推論するなどの基本的な学習能力のうち、一つか、2つ以上の能力を習得することが困難な状態のことをいいます。読み書きの苦手さは、保育所や幼稚園で活き活きと活動していた子どもたちが小学校に上がって「学習」が始まってから顕著になることが知られています。読んだり書いたりすることに大変さを感じているお子さんに対しての支援としては、
・読む部分だけが注目できるように、文字を指で押さえたり、シートを利用してみたりする。
・単語や文節ごとに線を入れて、区切りがわかるようにする。
・単語や漢字をカードに書いて、素早く読み取る練習をする。
・ワークシートを利用して、書く量を減らす。
・保護者の方と一交代日記で楽しむ。
漢字はパーツごとに分解して、言葉にして説明したり、読み合わせたりして練習する。
など、本人が取り組みやすいやり方で経験させ、まずは褒め認めてやり、続いて諦めない姿勢を励ましましょう。自分でできた経験を積み重ねること、自信をもって課題に取り組めるようになると思われます。学級担任の先生とも相談しながら、複数の目をもってお子さんにとって一番望ましい方法を探していくことが大切です。
子どもたちは一人ひとり異なった成長の仕方があります。教育相談室では、不器用であったり、本人の努力不足ではないやりにくさがあったりといった様々なご相談にお応えします。ご相談の際には事前に電話でのご予約をお願いします。
(問合せ) 富士見市教育相談室
TEL 049-253-5313

教育委員会だより

小・中学生のための 「5 days チャレンジ」

富士見市では、全ての子どもたちの確かな学力の育成を目指し、各学校において学力向上に取り組んでいます。

学力向上には、基礎的・基本的な知識や技能を身につけることと、生活や学習のリズムを整え、自ら学習する生活習慣を身につけることが大切です。

そこで、市の学力向上プロジェクトチームでは、基礎的・基本的な知識や技能を身につけるために、教材「夏のチャレンジ」「冬のチャレンジ」を作成し、活用しています。今年度は、更に、生活や学習のリズムを整え、自ら学習する生活習慣を身につけるための取組として「5 days チャレンジ」を企画しました。来年度より富士見市の全ての小中学校でこの「5 days チャレンジ」に取り組み、学力向上を目指します。

☆発達段階に合わせた3つのバージョンを用意

- ・中学生用
- ・小学校高学年(4～6年)用
- ・小学校低学年(1～3年)用



☆方法・内容

自分で目標を立てて、実行します。できたかどうかを子どもが自分で評価し、毎日家庭と学校で確認し、認め、励まし、継続して取り組めるようサポートします。

☆取り組みの時期

- ・学期に1回(5日間)…習慣化を目指し、学期初めに取り組みます。

お家の方のご協力をよろしくお願いたします！

平成27年度富士見市立小・中・特別支援学校入学式

期日：4月8日(水) ※2月10日現在

学校名	開式時間	入学予定者数	学校名	開式時間	入学予定者数
鶴瀬小学校	10:30	115名	ふじみ野小学校	10:45	123名
水谷小学校	10:30	78名	つるせ台小学校	10:40	96名
南畑小学校	10:45	34名	富士見台中学校	9:30	190名
関沢小学校	11:00	88名	本郷中学校	9:45	143名
勝瀬小学校	10:40	112名	東中学校	9:50	98名
水谷東小学校	11:00	63名	西中学校	9:20	158名
諏訪小学校	10:50	122名	勝瀬中学校	10:35	250名
みずほ台小学校	11:00	88名	水谷中学校	9:15	76名
針ヶ谷小学校	10:45	55名	富士見特別支援学校	10:20	19名



私が担任している四年生の子ども達は一回一回の学校行事で生き生きと輝く姿を見せてくれた。特に二月に行われたドッジボール大会、毎日の

勝ち負けの結果を超えて

関沢小学校

教諭 長谷川 雅一



ように練習していた姿が記憶に新しい。

これまで私のクラスは外で元気にサッカーやドッジボールをして遊ぶ児童よりもボール遊びに苦手意識を持つ児童

が多かった。事実、練習を始めた当初は得意な子だけで楽しんでしまい、「ボールが痛い」「ボールが回ってこない」といった声が多くあがった。「みんな楽しんで」という目標

には程遠かったのである。しかし、一人一人が自分の

めあてを立てて、全員が達成できれば勝てる！みんなで満足できるはずだ！という気持ちで練習に取り組むようにな

ると子ども達の目が生き生きと輝くようになった。日に日に休み時間だけでなく放課後や朝の時間にも自主的に練習する児童が増えてきた。また、練習でも「ドンマイ！」「ナ

イスキャッチ！」「オツケー！」といった仲間を気遣う声が大きくなってきたのだ。そんな中で普段の生活にも変化が見られた。「おはよう！」「ありがとう！」といった温かい言葉が日常のあちこちで増えてきたのである。子ども達の心が前向きに成長した証であると実感した。ドッジボールは勝負の世界であるから当然勝ち負けの結果も出る。しかし、そんな結果を乗り越えて自己の成長を通して仲間と絆を深めた子ども達は私の自慢の教え子である。

編集日記

学校は、児童生徒の健やかな成長と自己実現を目指して学習活動をおこなうところである。その基盤として安全で安心な環境が確保されていなければならぬ。しかし、下校中の児童が殺害される事件、行方不明や不審者情報などが相次いで発生するなど、通学路における登下校の問題は大きい。各学校や地域において子どもの安全確保については、警察や市町村単位による連携など様々な工夫や取り組みもされている。そのような中、学校応援団による見守りの方の patrool は、大きな成果であり、地域の輪が広がっていることは大変嬉しく感謝一杯である。さて、既に周知のところであるが、富士見市PTA連合会が推進している835運動は、千葉県浦安市ではじまったと聞き始めている。子どもたちの登下校・帰宅時間の「8時・3時・5時頃」に買い物や散歩など街に出よう。何かをしながら子ども達の安全を見守り、防犯の抑止力につなげようという取り組みである。最近、学校も地域からも子どもたちの「挨拶ができない」という声をお聞きする。知らない人には、勿論しづらい関係であり、地域と関わり顔と顔を合わせる機会が増える中で挨拶が飛び交う安全で安心な街づくり、富士見市民の皆様の一層のお力を頂きたいと強く願うものである。

(忽滑谷)